

一

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

この部分は著作権の都合上、公表できません。

この部分は著作権の都合上、公表できません。

この部分は著作権の都合上、公表できません。

この部分は著作権の都合上、公表できません。

(源河亭『美味しい』とは何か』による)

(注) フェスティンガーほか「一九九五」II レオン・フェスティンガーほか著『予言がはずれるとき―この世の破滅を予知した現代のある集団を解明する』(水野博介訳、勁草書房 一九九五年)

問一 傍線部(1)～(4)について、片仮名を漢字に直しなさい。

問二 空欄〔Ⅰ Ⅱ〕に入る文として適当なものを次の中から二つ選び、番号で答えなさい。ただし、解答の順序は問わない。

- 1 先週行ったラーメン屋は行列ができるほど評判が良い
- 2 先週のラーメンは食べるのに多くの時間と労力がかかった
- 3 先週のラーメンは今週のラーメンよりおいしかった
- 4 今週行ったラーメン屋の材料や調理工程は先週行った店と同じである
- 5 今週のラーメンは先週のラーメンよりおいしかった
- 6 今週のラーメンは簡単にありつけた

問三 傍線部(ア)「バイアス」の意味としてもっとも適当なものを次の中から選び、番号で答えなさい。

- 1 誤謬^{びやう} 2 無知 3 自己暗示 4 先入観 5 錯覚

問四 空欄 A B に入るもっとも適当なものをそれぞれ次の中から選び、番号で答えなさい。

- 1 そこで 2 もしかして 3 なおさら 4 したがって 5 むしろ 6 とはいえ

問五 傍線部イ「純粹主義」とあるが、ここで言う「純粹主義」とはどのような主義を指すと考えられるか。もっとも適当なものを次の中から選び、番号で答えなさい。

- 1 優れた批評家は、他人の意見に惑わされず、自分の純粹な意見を発信すべきだという主義
- 2 料理を味わう際には、値段などの情報にとらわれず、自分の知覚のみを頼りにすべきだという主義
- 3 値段などの様々な情報を前提にした上で、自分の率直な味覚の感想を信用すべきだという主義
- 4 様々な情報によって味覚は歪められるもので、常に厳しく評価を下すべきだという主義
- 5 純粹な食材の風味を味わうために、風味の強い調味料を用いるべきではないという主義

問六 次の文は、本文で述べられている主張を端的にまとめたものである。文中のことはを用いて、空欄(1)に入る語句や文を書きなさい。ただし、(1)は文中から九字で抜き出すこと。また、(2)は十字程度、(3)は二十字程度でそれぞれまとめること(記号や句読点も字数に含む)。

私たち人間は、苦勞して手に入れたものや、値段の高いものを高く評価してしまいがちである。このような心の働きは(1)と呼ばれ、料理や食品の味覚も、値段や材料の産地などの情報によって歪められてしまうことがある。

しかし、値段などの情報は、料理を味わう上で悪い方向に働くとは限らない。なぜならば、値段などの情報を得ることによって、様々な風味は(2)ようになるからである。

重要なことは、知覚以外の情報を排除することではなく、それらの情報がどのような悪い影響をもたらすかを理解し、その上で(3)ことである。

二

次の文章は佐多稲子『狭い庭』の一節である。家具製造店に勤める大田順吉は、妻のしげのとともに庭の植木を眺めながら、以前自宅をよく訪れていた苗木売りの伊志野剛直（植木屋の爺さん）のことを思い出していた。以下は、それに続く場面である。これを読んで、あとの問いに答えなさい。

この部分は著作権の都合上、公表できません。

この部分は著作権の都合上、公表できません。

この部分は著作権の都合上、公表できません。

この部分は著作権の都合上、公表できません。

(佐多稲子『狭い庭』による)

問一 傍線部(1)～(4)について、片仮名を漢字に直しなさい。

問二 空欄

A

B

に入ることばとしても適当なものをそれぞれ次の中から選び、番号で答えなさい。

- | | | | | | | | | | | | |
|---|-------|---|------|---|------|---|------|---|------|---|------|
| 1 | おもむろに | 2 | ただちに | 3 | たいてい | 4 | いささか | 5 | さすがに | 6 | まもなく |
|---|-------|---|------|---|------|---|------|---|------|---|------|

問三 傍線部ア「本職の植木屋」とあるが、順吉夫妻が伊志野剛直以外の植木屋を家に呼んだ理由の説明としてもっとも適当なものを次の中から選び、番号で答えなさい。

- 1 伊志野剛直の変った人柄に不信感を覚えたから。
- 2 伊志野剛直が持つてくる苗木に物足りなさを感じたから。
- 3 伊志野剛直よりも、格式ある植木屋に頼みたいと思ったから。
- 4 伊志野剛直のはつきりしない素性を怪しく思ったから。
- 5 伊志野剛直の淋しそうな顔つきに心の距離を感じたから。

問四 傍線部(イ)について、順吉が伊志野剛直に対して感じた「彼を裏切るような、うしろめたさ」とは具体的にどのような気持ちか。五十字以内で説明しなさい(記号や句読点も字数に含む)。

問五 傍線部(ウ)「同感とも羨望ともつかぬ、なつかしさを、じいっと感じて立っていた」について、次の問いに答えなさい。

(1) 「同感」とは具体的にどのような感情か。もつとも適当なものを次の中から選び、番号で答えなさい。

- 1 行方をくまらずことでは自己主張ができなかった、過去の伊志野に深く同情する気持ち。
- 2 年齢を重ねたことで、伊志野が姿を消さざるを得なかった事情に思い至り、納得する気持ち。
- 3 きつぱりと姿を消すことで順吉たちに意地を示した、過去の伊志野の行動に共感する気持ち。
- 4 引き際を誤らずしかるべきタイミングで姿を消した、伊志野の賢い生き方を見習いたい気持ち。
- 5 仕事で叱責された不快感から、伊志野のように姿を消し現状から逃げたいと切望する気持ち。

(2) 順吉が伊志野に「羨望」を抱くのはなぜか。もつとも適当なものを次の中から選び、番号で答えなさい。

- 1 仕事で自分の情けなさを突きつけられても、伊志野のように誇りを示すことが順吉にはできないから。
- 2 流れ者のような生活だった伊志野とは異なり、順吉には仕事を辞められないプライドがあるから。
- 3 日々漫然と仕事をこなしている順吉にとって、仕事に誇りを持つ伊志野は目標のようなものだから。
- 4 順吉も仕事に誇りは持っているが、伊志野が苗木売りにかけた誇りには及ばないと思い知ったから。
- 5 小さなミスでもプライドが傷ついてしまう順吉と、強固な意志を持つ伊志野は対極的な性格だから。

問六 本文の内容にもっとも合っているものを次の中から選び、番号で答えなさい。

- 1 伊志野が大田家に通っていた当時、伊志野が見せる淋しげな表情に、順吉たちは全く気がつかなかった。
- 2 伊志野が大田家に通っていた当時、夫婦は伊志野に親しみを感じていたが、伊志野はそうではなかった。
- 3 伊志野が大田家に通っていた当時、伊志野の感情の機微によく気がつくのは、しげのではなく順吉だった。
- 4 伊志野が姿を見せなくなつてから、順吉は伊志野のことを絶えず思い出し、安否を心配するようになった。
- 5 伊志野が姿を見せなくなつてから、しげの伊志野に対する印象は、それまで以上に悪いものになった。

問七 『狭い庭』は、一九五六年に発表された。本作と同じく第二次世界大戦後に発表された文学作品を、次の中から一つ選び、番号で答えなさい。

- | | | | | | | | | | |
|---|-----|---|-----|---|----|---|----|---|-----|
| 1 | 金閣寺 | 2 | 山月記 | 3 | 舞姫 | 4 | 破戒 | 5 | 羅生門 |
|---|-----|---|-----|---|----|---|----|---|-----|

選択問題

三

(その一・古文) 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

この部分は著作権の都合上、公表できません。

(『伊勢物語』による)

問一 傍線部(1)「御ぐしおろし」の意味するところを答えなさい。

問二 傍線部(2)「正月」の和名異称を平仮名で答えなさい。

問三 空欄 A に入ることばを平仮名一字で答えなさい。

問四 傍線部(3)「で」の意味と品詞を答えなさい。

問五 空欄

B

には助動詞「けり」が入る。文中にふさわしいかたちに活用させて答えなさい。

問六 傍線部(4)「ひねもす」の意味を答えなさい。

問七 傍線部(5)「雪の積るぞわが心なる」を文脈に沿ってわかりやすく現代語訳しなさい。

問八 『伊勢物語』は文学史上どのようなジャンルに分類されているか。もっとも適当なものを次の中から選び、番号で答えなさい。

1 作り物語

2 歴史物語

3 伝奇物語

4 歌物語

5 擬古物語

三

（その二・現代文） 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

この部分は著作権の都合上、公表できません。

この部分は著作権の都合上、公表できません。

この部分は著作権の都合上、公表できません。

(西成活裕『誤解学』による)

(注) 軋轢^{あつれき}＝仲が悪くなること

問一 傍線部(1)～(4)について、片仮名を漢字に直しなさい。

問二 空欄

A

B

D

に入るもつとも適当なものをそれぞれ次の中から選び、番号で答えなさい。

1 もしかすると

2 つまり

3 あるいは

4 そして

5 なぜなら

6 ただし

問三 傍線部(ア)「これが自分自身への先入観となって柔軟さを失っていく」とはどのようなことか。もっとも適当なものを次の中から選び、番号で答えなさい。

- 1 自分に対する周囲の評価と自己評価との差に驚き、様々な人にその理由を尋ねてみることに。
- 2 自分に対する周囲の評価が適切だと考え、他者とのコミュニケーションが円滑にできるようになること。
- 3 自分に対する周囲の評価が不適切だと考え、他者とのコミュニケーションが円滑にできなくなることに。
- 4 自分なりのルールに固執するあまり、柔軟な思考力を育むことができなくなること。
- 5 自分なりの生活スタイルに固執するあまり、隔離された環境でしか生きられなくなること。

問四 空欄 C F に入るもっとも適当なものをそれぞれ次の中から選び、番号で答えなさい。

C	1 絶対的に	2 相対的に	3 標準的に	4 全体的に	5 多面的に
F	1 好運にも	2 一概にも	3 偶然にも	4 皮肉にも	5 無謀にも

問五 傍線部(イ)「集団生活でのたしなみ」の意味としてもっとも適当なものを次の中から選び、番号で答えなさい。

- 1 日常の場面で心がけること
- 2 日常の場面で学ぶこと
- 3 非日常の場面で忘れてはいけないこと
- 4 非日常の場面で慌てないこと
- 5 相手を問わず人づきあいをする事

問六 空欄 E に入るもつとも適当なものを次の中から選び、番号で答えなさい。

- | | | | | |
|------|------|------|------|------|
| 1 発散 | 2 解消 | 3 維持 | 4 緩和 | 5 助長 |
|------|------|------|------|------|

問七 この文章を読んだマキさんは、要約文を書くために次のようなメモを作成した。空欄 I I III に入るもつとも適当な漢字二字をそれぞれ文中から抜き出して答えなさい。

人は、自分が誤解されていると感じると、自己 I をしようとす。特にプライドの高い人は、自分の間違いを認めようとせず、それを正当化する傾向があるため、周囲の理解が得られず、人間関係が複雑になりがちである。また、自己 II を目指す人は、自分の理想と周囲のずれに敏感になり、自己中心的な考えに陥りやすい。周囲との良い関係を築きながら自分のあるべき姿に近づくためには、状況に応じて自己 III を調整する必要がある。

【一】

- 問一 (1) 遜色 (2) 飢 (3) 凝 (4) 遮断
- 問二 2・6 (順不同) 問三 4
- 問四 A || 5 B || 6 問五 2
- 問六 (1) 認知的不協和の解消
- (2) (例) より正確に判断(評価)できる
- (3) (例) 自分の判断が左右されていないか(歪められていないか) 気にかける(注意する)

【出題意図】

- 問一 漢字の知識、書き取り能力を問う。
- 問二 文脈の理解を問う。
- 問三 語彙(外来語)の知識を問う。
- 問四 文脈を理解し、適切な接続表現を用いる能力を問う。
- 問五 文脈を理解する能力を問う。
- 問六 論旨を理解し、適切に要約する能力を問う。

【二】

- 問一 (1) 卑屈 (2) 疎開 (3) 縄 (4) 請求
- 問二 A || 3 B || 5
- 問三 2
- 問四 (例) 夫婦に対する伊志野の親しみの気持ちを知らながら他の植木屋を呼ぶことになり、伊志野に悪く思う気持ち。
- 問五 (1) || 3 (2) || 1
- 問六 3
- 問七 1

【出題意図】

- 問一 基本的な漢字の書き取り。
- 問二 副詞の理解。
- 問三 内容の把握。
- 問四 登場人物の心情の理解。
- 問五 登場人物の心情の理解。
- 問六 内容の把握。
- 問七 基礎的な文学史の知識の確認。

三

その一・古文

問一 出家する。僧侶になる。俗世を捨てる。

問二 むつき

問三 え

問四 (意味) 打消 (品詞) 接続助詞

問五 ける

問六 一日中。終日。

問七 雪が積もって降り込められる(出歩くことができない)のは、むしろこのままずっと親王のおそばにいたいという私の心になっております。

問八 4

【出題意図】

問一 古語の意味を問う。

問二 日本語の常識を問う。

問三 古文の語法を問う。

問四 文法的知識を問う。

問五 文法的知識を問う。

問六 古語の意味を問う。

問七 文脈理解と現代語訳能力を問う。

その二・現代文

問一 (1) 遭遇 (2) 巡 (3) 蓄積 (4) 譲歩

問二 A ∥ 4 B ∥ 2 D ∥ 6

問三 3

問四 C ∥ 2 F ∥ 4

問五 1

問六 5

問七 I 防衛 II 拡大 III 評価

【出題意図】

問一 基本的な漢字の書き取り。

問二 文章構造の理解力の確認。

問三 内容の把握。

問四 内容の把握。

問五 語彙力の確認。

問六 内容の把握。

問七 内容の把握。